

中国電力株式会社 島根原子力発電所 1号炉及び2号炉において用いた資材に含まれる放射性物質の放射能濃度の測定及び評価方法に関する面談でのコメントリスト

:完了

No.	コメント内容	受領日	回答状況	回答資料
1	今回、中国電力が考える測定装置が他事業所で既認可の装置と同じものであれば、既認可での資料をよく確認して資料を見直すこと。(同じ評価をしているのに表現・数値が違うと分かりづらい)	令和2年6月8日	後日回答	—
2	拡張不確かさから安全率を求める方法を説明すること。	令和2年6月8日	本日回答	資料2-1
3	放射能換算係数の相対誤差が、考慮されていることを説明すること。	令和2年6月8日	後日回答	—
4	模擬対象物の実測による安全率の評価がなされているが、安全率の設定における前提条件を説明すること。	令和2年6月8日	本日回答	資料2-1
5	模擬線源で評価した安全率と不確かさ評価の安全率の関係を説明すること。	令和2年6月8日	本日回答	資料2-1
6	検出限界値を求めるに当たって、安全率の寄与を説明すること。	令和2年6月8日	本日回答	資料2-1
7	放射性物質の種類を選定において考慮した汚染のメカニズムについて運転履歴も考慮したうえで説明すること。	令和2年6月8日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-2
8	N-17による放射化汚染の影響についても説明すること。	令和2年6月8日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-1
9	申請対象物について、対象物の形状やサイズのイメージがわかるように写真等を交えて具体的に説明すること。	令和2年6月8日	第2回ヒアリング (令和2年8月3日)にて説明	資料2-3
10	測定対象物の放射能濃度 (Bq/g) を求めるに当たり、計算過程を示すこと。その中で、対象物の重量の補正や各検出器での測定値の扱いを説明すること。	令和2年6月8日	本日回答	資料2-1
11	検認後のクリアランス対象物が汚染のおそれのある場所を通過する可能性があるが、追加的汚染が発生しないことの担保の方法を説明すること。	令和2年6月8日	本日回答	資料2-3

No.	コメント内容	受領日	回答状況	回答資料
12	B区域の中にA区域を設定する方法についてパーテーションで区切る程度でB区域の中にA区域を設定できるのか、その考え方を説明すること。	令和2年6月8日	本日回答	資料2-2
13	測定装置の性能確認において、クリアランスレベル相当のものを用いて確認した結果を説明すること。	令和2年6月8日	後日回答	—
14	不確かさの計算の過程を詳細に説明すること。	令和2年6月8日	本日回答	資料2-1
15	放射化汚染の評価について、同汚染の有無の判断方法の妥当性が確認できないため、よく検討した上で判断方法の妥当性を説明すること。	令和2年8月3日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-1
16	二次的な汚染の評価について、採用したモデル、計算式及びパラメータの妥当性並びに放射性物質の種類が幅広く選定されることが確認できないため、それらの根拠を説明すること	令和2年8月3日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-2
17	東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴うフォールアウトの影響の有無の判断にあたっての、具体的な測定方法及び評価方法を記載すること。	令和2年8月3日	回答書を再提出する	資料提出 (8月27日)
18	機器の中性子束評価の評価モデルで示した、寸法が何を指すのか、主要材料が具体的にどの部材に対応するのか、機器のうちどれが評価対象になるのかを明確化すること。	令和2年8月27日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-1
19	ANISNは一次元モデルであるが、具体的にはどのような評価をしているのか説明すること。	令和2年8月27日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-1
20	放射化計算の評価モデルの中で、どこを中性子源としているのかを明確に説明すること。	令和2年8月27日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-1
21	低圧タービンの線源スペクトルを示しているが、計算の過程を順番に示すこと	令和2年8月27日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-1
22	濃度不明元素の材料組成を1000ppmとしている根拠(微量元素のオーダーが100ppm程度なので、それを切り上げて保守的に1000ppmとしている)を本文中にも明記すること。	令和2年8月27日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-1
23	中性子線の計算結果と測定結果の比較を示しているが、低圧タービンの位置を明示すること	令和2年8月27日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-1

No.	コメント内容	受領日	回答状況	回答資料
			日)にて説明	
24	二次的な汚染の評価において、沈着剥離モデルの考え方を基にして、計算式を設定した方法および、参照した文献等を示すこと。	令和2年8月27日	第4回審査会合 (令和2年9月7日)にて説明	資料1-2
25	フォールアウトのマスキング範囲について、既認可を基に見直すこと。	令和2年8月27日	後日回答	-
26	フォールアウトの影響の有無の判断において、バックグラウンドの測定時間および計算方法を示すこと。	令和2年8月27日	後日回答	-
27	フォールアウトの影響の有無の判断において、ふき取り効率を0.5とできる根拠を示すこと。	令和2年8月27日	後日回答	-

以上